

地域における「生涯を通しての学びの場」の構築

第4期中期計画

# 宮城大学の教育組織改革案

幸福な人口縮小社会をデザインする先鋭的な大学へ

2026/1/22

公立大学法人宮城大学\_評価委員会

宮城大学

公立大学法人宮城大学



# 改革の背景および必要性

将来像の実現に向け  
た具体的内容

—宮城大学の教育研究を通して果たすべき役割と取組み—

## 外的背景（日本社会の状況）

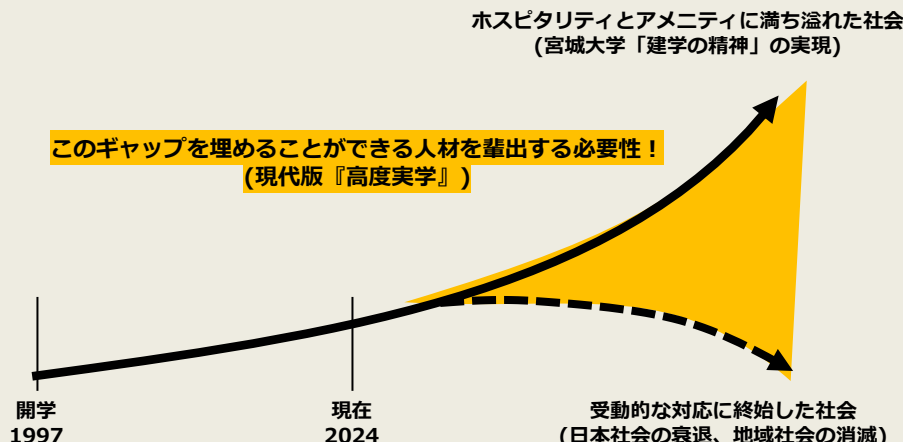
- ・人口減少  
18歳人口：2023年約100万人 → 2045年約80万人  
東北の減少比は大（宮城県は全国平均）  
⇒ **大学等定員充足率の確保・優秀な入学者確保：困難**
- ・労働市場の変化  
AI市場規模の急成長とDX人材不足の危機的状況  
ジョブ型雇用の増加、転職率7.5%の高水準  
⇒ **VUCA時代を生き抜く自立した人材の育成：必要**

## 近隣背景（地域（宮城県）の状況）

- ・県内人口  
2045年：2015年比23%減（180.9万人）  
3GeV高輝度放射光施設ナノテラス 2024年稼働  
⇒ **人材確保・高度専門人材確保：困難**
- ・新たな教育体制・国際化  
アイデアルスクール（広瀬高校の転換）2027年開校  
市立日本語学校（大崎）2025年開校  
⇒ **地域社会の教育ニーズへの適切な対応：必要**

## 内的背景（宮城大学の状況）

- ・入試競争倍率の低下傾向  
全学群平均 2024年4.1倍（他学に比べては高い：健闘）  
特に一般選抜前期
- ・入学者の下位ボーダー  
低下（他学も同様）  
成績不良者の入学、教育遂行上の問題
- ・大学ブランドランキング  
東北エリア12-16位
- ・学類配属におけるアンマッチ  
学生の不安・不満  
学部教育転換の必要性（大学設置基準の改訂2022年）
- ・理系教育の充実  
実社会で役立つコンピテンシー醸成の必要性  
⇒ **宮城大学ならではの学びとその環境の提供：人材育成**



社会情勢の急速な変化を踏まえ、第4期中期計画の策定や  
さらなる未来に向けて大学のあるべき姿を見据えた具体的なプランを提示する必要性



# MYUモデル：新たな公立大学モデルの創出

## 地域における「生涯を通しての学びの場」を構築：「幸福な人口縮小社会」の創出に貢献

- ・学群教育のみではなく、大学院教育、そして社会人を対象としたリカレント教育、さらには高校生を中心に小中高生までを対象とした入学前教育までを包括し、連続性を考慮した「学び」を構築・提供
- ・学びを必要とする全ての人々を支援し、地域社会の未来変革を主導する人材育成

### 新・宮城の将来ビジョン：政策推進の基本方向

### [2]社会全体で支える宮城の子ども・子育ての実現

### [2]社会全体で支える宮城の子ども・子育て

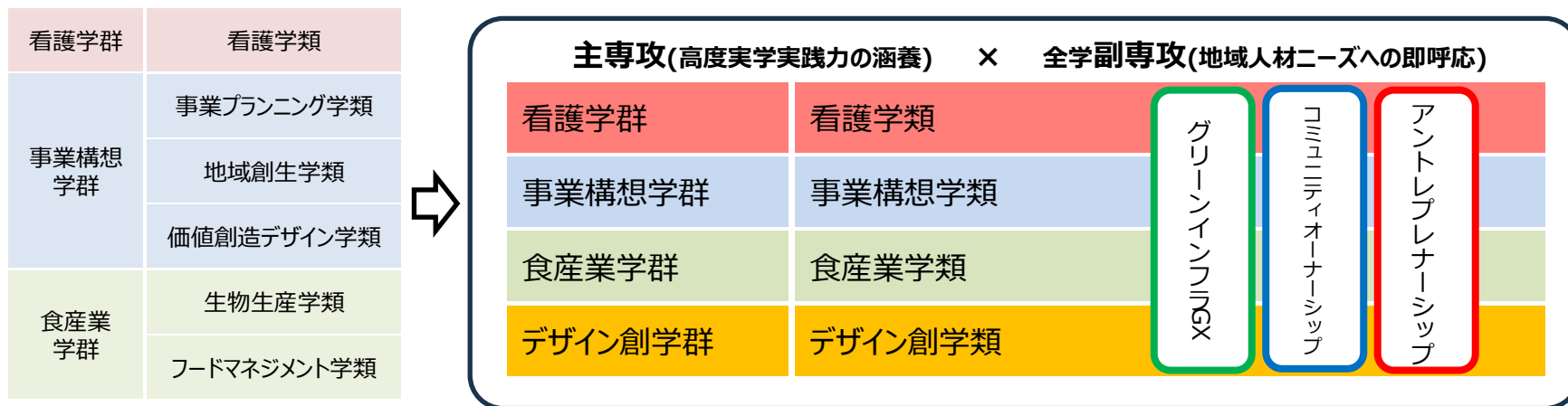
- (3) 子ども・子育てを社会全体で切れ目なく応援する環境をつくる
- (4) 社会を生き、未来を切りひらく力をはくむ教育環境をつくる



# 改革の3つのポイント：学生・地域のニーズへの対応



- ✓ **学群学類の改編；デザイン創学群の設置・「3学群6学類」から「4学群」へ**  
 ：新たな価値創出とそのための人材育成・大学運営の効率化・魅力向上  
 ：**未来を構築＝デザインし、社会を変革するデザイン創学**により未来社会を先導
- ✓ **副専攻プログラム新設；「グリーンインフラGXプログラム」「コミュニティオーナーシッププログラム」「アントレプレナーシッププログラム」**：**明確な地域人材ニーズへ迅速かつ柔軟に対応**
- ✓ **全学教育連携センター（仮称）の設置；全学横断的な学びの設計と可視化**  
**\*大学の理念やミッションに、より特化し、ビジョンを精緻化**



- **学生ファースト**：「学び」の見える化、1学類制、副専攻で**柔軟で多様な学修機会**の提供、専門性の深掘り
- **地域社会への貢献**：新たな価値創出のための具体的な人材育成と輩出、**あらゆる人々に開かれた大学**
- **わかりやすさの向上**：副専攻による**融合的学び**、教育内容と体制を対応、対外的な認知度の向上
- **リソースの最適化**：教員配置の適正化、学生募集の効率化、遠隔授業環境の整備（キャンパス間でのオンライン授業）
- **研究力の強化**：研究連携・共同研究促進、大学院との連続性の担保、外部資金獲得機会の向上

将来像の実現に向け  
た具体的内容

# デザイン創学群 – 3 ポリシー –



宮城大学  
MIYAGI UNIVERSITY

## デザイン創学 *Transdisciplinary Design & Innovation Studies* とは？

デザインで創る  
デザインを創る  
デザインが創る

幸福な人口縮小社会

デザイン思考：課題解決のフレーム  
↓ 拡大  
デザイン創学：未来を構築し、社会を変革するフレーム

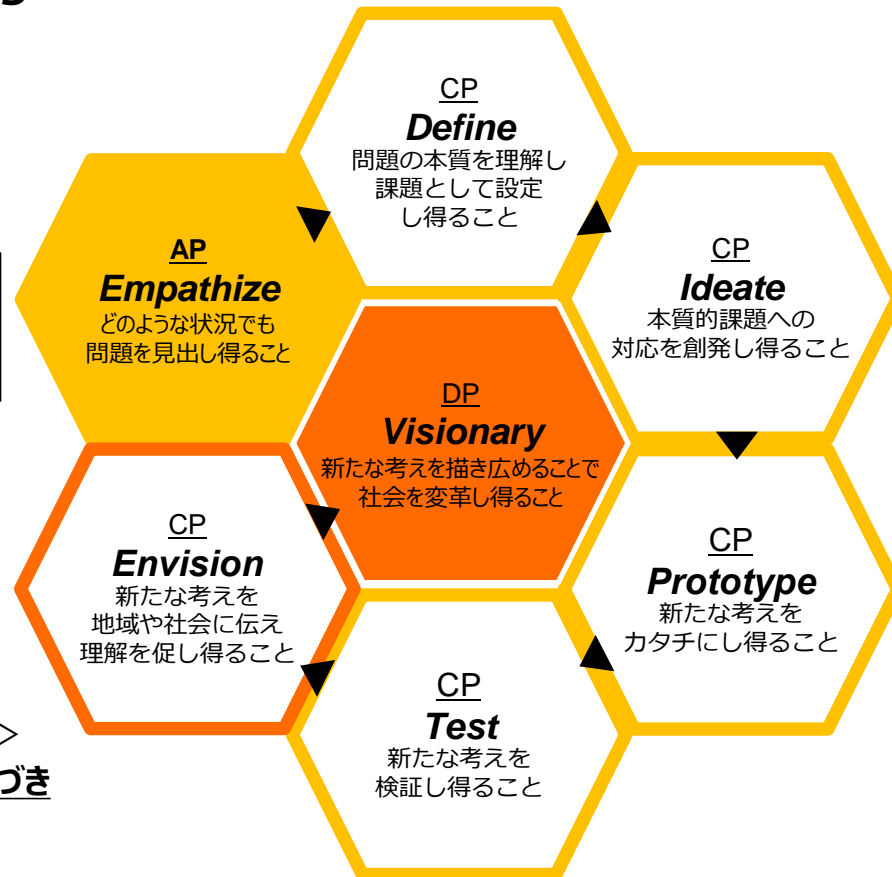
未来社会をデザインする/変革をデザインする

<デザイン創学における学びのプロセス>

5つのプロセス **共感Empathize** ▶ **定義Define** ▶ **発想Ideate** ▶  
**試作Prototype** ▶ **試行Test** ▶ に構想 **Envision** を付加



<新たな考えを創発、社会へ展開し、未来を創り出す **Visionary** 人材>  
= 未来を構築し、社会を変革するフレームであるデザイン創学に基づき  
幸福な人口縮小社会を先導する人材を育成する



### 求める人物像 AP

常識や定説に囚われることなく  
どのような状況においても問題  
を見出し得る(**Empathize**)人

**Possibilian** (可能性を持つ人材)

### 学びの方針 CP

1. 問題の本質を理解する
2. 本質的課題への対応を考える
3. 考えを伝え広く検証する

4年間の学び

### 培われる能力 DP

これまでとは異なる新しいことを  
考え広く社会に伝える能力

**Ability of thinking something new  
and communicating it**

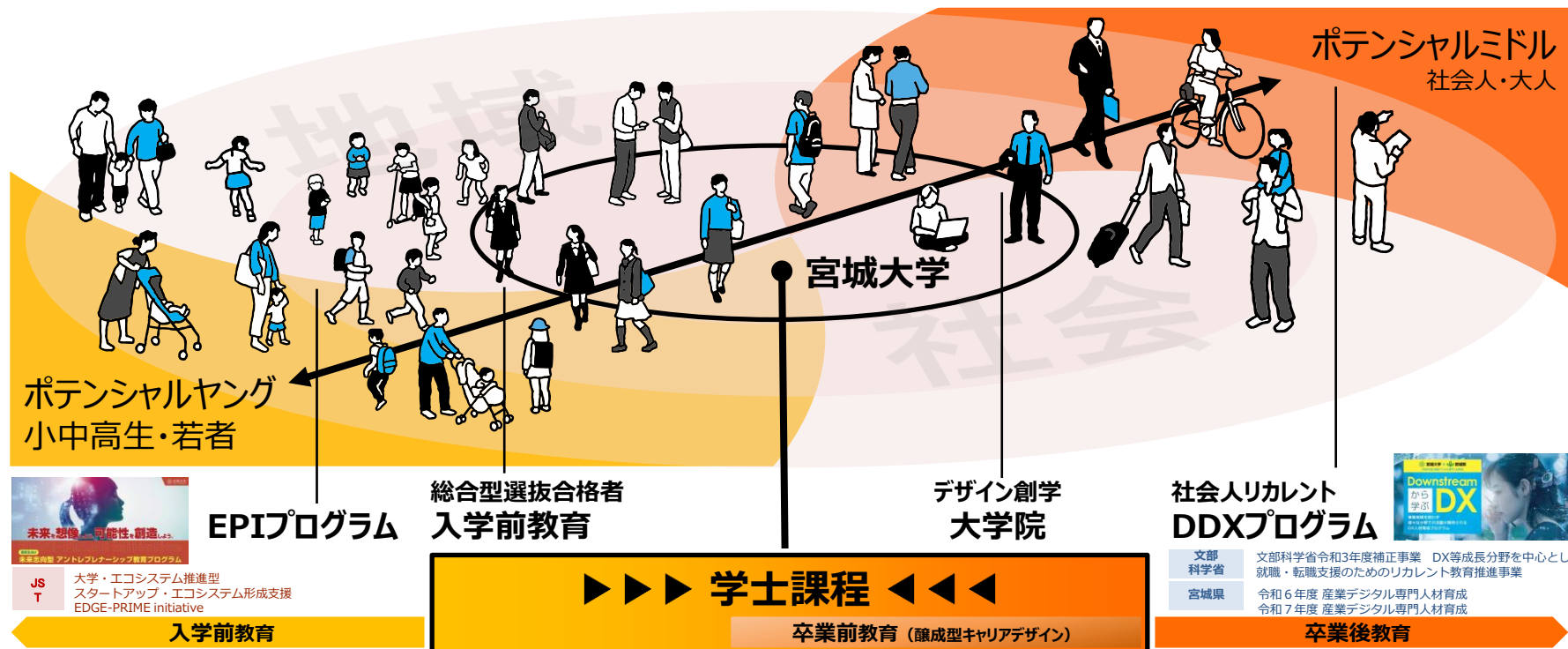
将来像の実現に向け  
た具体的内容

# 学位プログラムの全体像



宮城大学  
MIYAGI UNIVERSITY

学びにおける「良質な体験」を、  
学士課程はもちろん、入学前から卒業後まで繰り返し得られる『舞台』の提供



## デザイン創学群における<学位プログラム>

- ・学びを「与えられるもの」から、「自ら創り出すもの」へ
- ・「人が集まる意味のある学び」に時間と空間を最大限投下できる仕組みの構築

機能強化支援事業による「良質な学修体験」を支える環境の整備

将来像の実現に向け  
た具体的内容

# 醸成型キャリアデザイン



宮城大学  
MIYAGI UNIVERSITY

## 社会との接続（キャリアデザイン）を「醸成プロセス」として考える

デザイン創学群の理念を「実践・拡張・深化・統合」し、大学と企業が協同して成長を熟成する社会貢献型教育モデル。「学生の学修意識」と「社会（企業等）からの教育支援・接続発展」を往還的に結びつけることを目的とする。

ペイトロン精神に基づいたキャリアデベロップメントのための伴走支援

入学前教育



学士課程への専念



研究・探究の結実  
デザイン創学Ⅳ  
デザイン創学研究Ⅶ・Ⅷ



醸成型  
キャリア  
デザイン

企業等のエンゲージメントを  
基軸とする演習科目  
デザイン創学演習として実施



ペイトロン精神により  
強化充実した教育プログラム  
*Patronage-Supported, Enriched Program*



卒業時の社会との接続

学生が安心して学士課程の学びに専念できる仕組みを整え、  
修得した知識・能力を企業等と連携して卒業後の社会接続と実践へ確実に橋渡しすることで、  
宮城大学の教育成果として地域社会に貢献する人材を育成する。

将来像の実現に向け  
た具体的内容

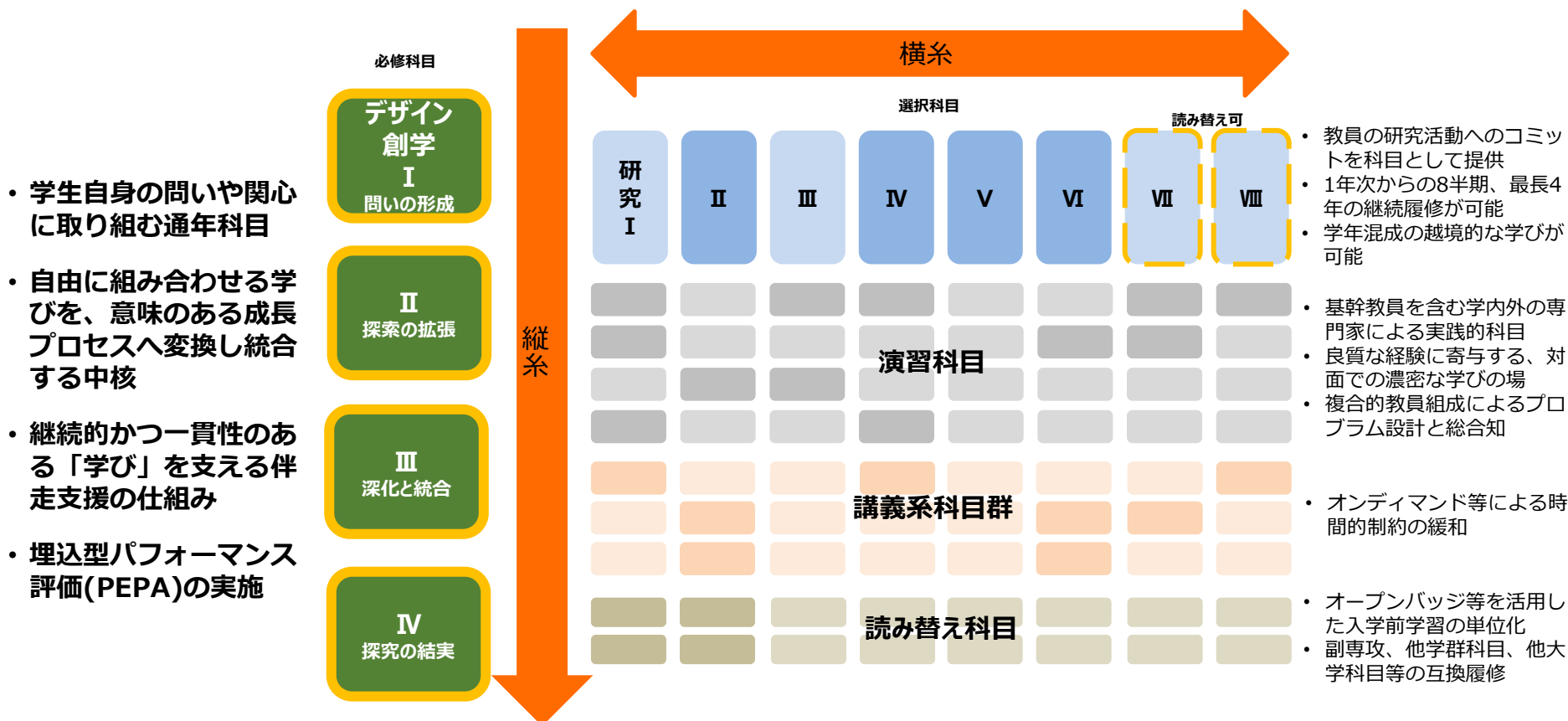
# コンポーザブルな学修体系



宮城大学  
MIYAGI UNIVERSITY

## 学びを「与えられるもの」から、「自ら創り出すもの」へ。

学群における唯一の必修科目「デザイン創学Ⅰ-Ⅳ」を基軸とし、モジュラライズされた多様な選択科目から学びを編纂することで、自分だけの成長地図（Learning Path）を構築する。



内容・方法・経験・期間・指導者を自律的に組み合わせ、自分の成長地図（Learning Path）を設計できる柔軟な学修モデルで、「自らの学びをデザインしようとする学生」を支える。



将来像の実現に向け  
た具体的内容

# カリキュラム体系

2025.10.31時点

	【学群基礎科目】 新規科目（通年） ＜必修＞ 責任：学群長	【専門科目】 新規科目（半期） ＜選択＞ 責任：各基幹教員	【専門科目】 新規科目（半期） ＜選択＞ 責任：各基幹教員	【専門科目】 現行科目 ＜選択＞ デザイン創学群 責任：基幹教員科目	【関連科目】 現行科目 ＜選択＞ 他学群履修等
1後	デザイン創学Ⅰ	デザイン創学演習	デザイン創学研究Ⅰ	数理・データサイエンス・AI 科目群	基盤科目・他学群 科目・他大学科目 等
1前			デザイン創学研究Ⅱ		
2後	デザイン創学Ⅱ		デザイン創学研究Ⅲ	マーケティングリサーチ・ブランディング ソーシャル・キャピタル・・・	
2前			デザイン創学研究Ⅳ	建築意匠論・人工知能とデザイン・ コモンズデザイン論・・・	
3後	デザイン創学Ⅲ		デザイン創学研究Ⅴ	素材と加工・都市計画 プロダクトデザイン・・・	
3前			デザイン創学研究Ⅵ	ビジネスと情報・リサーチメソッド・ 色彩と形態・・・	
4後	デザイン創学Ⅳ （選択必修）		デザイン創学研究Ⅶ（選択必修）	スマートシティ論・・・	
4前			デザイン創学研究Ⅷ（選択必修）		

デザイン創学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

- 通年8単位 計24単位（必修）
- WSを中心とした授業形態
- 全基幹教員＋メンター（非常勤）との伴走型科目
- Ⅳに関しては選択必修
- 新学群独自のSUS・FW等を内包

デザイン創学演習

- 基幹教員を含む学内外の専門家による演習科目
- 例：建築士演習科目
- デザイン創学群独自の科目
- 単なるオムニバスではない

デザイン創学研究Ⅰ-Ⅷ

- 2単位 計16単位（選択）  
＜各基幹教員が担当＞
- 【科目履修における指導教員選択の柔軟性】
- 1) Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ  
※同一教員による指導可（4年間連続）
- 2) Ⅶ・Ⅷ（4年前期・後期）  
※選択必修

講義系科目群

- MDASH（応用基礎レベル）の認定を予定
- オンデマンドを可能な限り推進

基盤教育科目群等

- 基盤科目は全て選択
- 他学群科目、他大学科目も可能な限り可

将来像の実現に向け  
た具体的内容

# デザイン創学 問いの形成～探求の結実



宮城大学  
MIYAGI UNIVERSITY

## 学群の縦糸となる唯一の必修科目



デザイン創学  
I  
問いの形成

### ポイント 1. 【横糸を編み込むための縦糸】

- 学びに係る良質な体験を、4年間に渡り繰り返し得られる基軸となる学びの『舞台』として提供
- 学士課程に留まらず、入学前教育と卒業後の学びを結び付ける縦糸の役目も担う
- 学群唯一の必修科目としてデザイン創学の全基幹教員によって運営

### ポイント 2. 【省察的实践教育】

- 入学前から始まり、卒業後も続く、学生自身の問い・関心を核とした探究
- 経験を意味づけ、成長プロセスへと統合する学び
- WS・対話・制作・実践などを通じた、思考と行動の往還

II  
探索の拡張

III  
深化と統合

IV  
探求の結実

### ポイント 3. 【学びの舞台設計者】

- それぞれの学年ごとに責任基幹教員をコンダクターとして配置
- 年度ごとの社会・時代のトレンドを読み解き、当該科目の設計を担う → 「今年の学生が何を学ぶべきか」を決める司令塔
- 60名規模に最適化された学修環境（WS型授業、実践、協働の仕組み）をデザイン

### ポイント 4. 【学びを支える伴走支援体制】

- 継続的かつ一貫した学びを支える伴走支援体制の導入
- 学士課程全体の履修・探究・キャリア形成に伴走し、将来像や関心に応じて「自分だけの Learning Path」の設計を支援
- 学びと社会を結びつけ、挑戦の機会拡張を支援する仕組み → 「この学びを自分の人生にどう織り込むか」を一緒に考える

全基幹教員によるWSを中心とした学修+スクーリング等による伴走支援体制



将来像の実現に向け  
た具体的内容

# 育成型入試の導入

## 入試を「育成プロセス」として捉える

- ・デザイン創学群の理念に共感し、自ら学びを構築しようとする意欲と個性をもつ生徒を早期に発見・評価
- ・大学と高校が協働して成長を支援する、マッチングを重視した育成型入試
- ・「志願者の学修意識」と「大学による学修支援・接続教育」を往還的に結びつけることを目指す

育成型入試

高大連携活動  
お互いを深く知る

高校での探究活動やアントレプレナーシップ教育等を通じ、デザイン創学群での学びへの理解や共感を喚起し、見定める



高大接続  
選抜前のすり合わせ

対象となる生徒との小規模対話・説明会等を広く実施し、双方の適合性（相性）を相互に確認



マッチング  
総合型選抜として実施

「選抜」と言うよりも「最終的な意思確認」の場として捉え、デザイン創学群と生徒の合意形成を行う



入学前教育  
学びのための発射台

入学予定者が、入学後、即座に学修をスタートするための、様々な準備活動とその支援を実施



入学後の教育  
(学士課程)

入学後も一貫して育成支援プログラムを学群基幹科目である「デザイン創学 I ~ IV」において継続し、自らデザインする学修を支援

入試を「入口」ではなく「学びのプロセスの一部」として位置づけ、  
高校・大学・学生の三者が共創的に育成に関わる仕組み

# 大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）

令和4年度第2次補正予算額 3,002億円

## 事業創設の背景

- デジタル化の加速度的な進展や脱炭素の世界的な潮流は、労働需要の在り方にも根源的な変化をもたらすと予想。
- デジタル・グリーン等の成長分野を担うのは理系人材であるが、日本は理系を専攻する学生割合が諸外国に比べて低い。

※ 理系学部 of 学位取得者割合

【国際比較】日本 35%、仏 32%、米 39%、韓 43%、独 41%、英 44%（出典：文部科学省「諸外国の教育統計」令和5（2023）年版）

【国内比較】国立大学 60%、公立大学 47%、私立大学 29%（出典：文部科学省「令和5年度学校基本調査」）

（注）「理・工・農・医・歯・薬・保健」及びこれらの学際的なものについて「その他」区分のうち推計

- デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行うためには、大学・高専が予見可能性をもって取り組めるよう、基金を創設し、安定的で機動的かつ継続的な支援を行う。

## 支援の内容

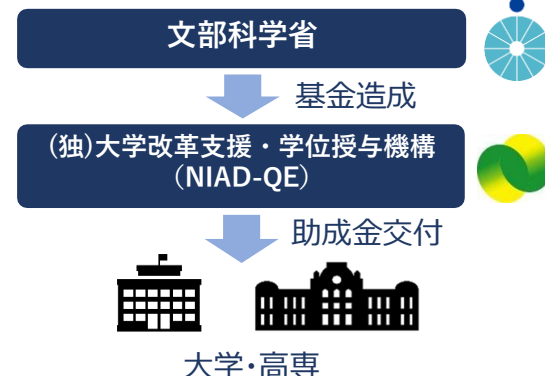
### ① 学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等（支援1）

- 支援対象：私立・公立の大学の学部・学科（理工農の学位分野が対象）
- 支援内容：学部再編等に必要な経費（検討・準備段階から完成年度まで）  
定率補助・20億円程度まで、原則8年以内（最長10年）支援
- 受付期間：令和14年度まで

### ② 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援2）

- 支援対象：国公私立の大学・高専（情報系分野が対象。大学院段階の取組を必須）
- 支援内容：大学の学部・研究科の定員増等に伴う体制強化、  
高専の学科・コースの新設・拡充に必要な経費  
定額補助・10億円程度まで、最長10年支援  
※ハイレベル枠（規模や質の観点から極めて効果が見込まれる）は20億円程度まで支援
- 受付期間：原則令和7年度まで

### 【事業スキーム】



# 大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）

令和4年度第2次補正予算額 3,002億円

## 宮城大学での支援事業（助成）の対象とスケジュール案

### \* 新学部再編（デザイン創学群（仮）設置）が対象

令和10年度 開設

- 学群等の再編を伴う宮城大学における教育改革に対して国がその事業費用を支援（助成）
- 令和10年度4月新体制開始予定＜第四期中期計画2年度より＞
- 既存の文系定員60名（収容総定員数240名＜一学年60名×4年生分＞）を理系定員60名に転換
- 現時点で想定し得る当該事業における総事業費：事業期間全体12億7千万円（最大）
- 「宮城大学第四期中期計画」（令和9年度4月開始：学群改組・副専攻設置、施設改修）と連動

### 【スケジュール案】

#### 【支援事業：新学群設置】

#### 【学群改組・副専攻開設】

#### 【施設改修】

令和7年2月 : 文科省への支援申請書の提出

令和7年6月 : 【結果】：採択

第4期中期計画立案

令和8年6月 : 事前相談（大学設置分科会運営委員会）

令和8年9月 : 結果伝達

令和9年4月 : 新学部設置届出

第4期中期計画スタート

学則改正届出

設計開始

令和9年秋 : 「新」入学者選抜制度実施

改修開始

令和10年4月 : 新学群開設

学群新体制開始・副専攻開設



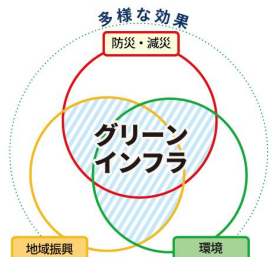
将来像の実現に向け  
た具体的内容

# 副専攻プログラムの概要

## 副専攻①

### グリーンインフラGX プログラム

【テーマ】 環境・生態系や、都市・農村・森林の社会インフラ基盤の知識をもとに、新たな社会デザインを描く素養を持った人材の育成



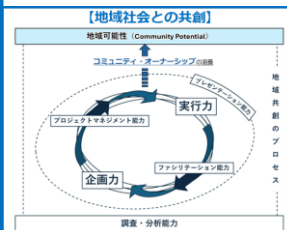
【必修科目】  
グリーンインフラGX概論、グリーンインフラ論

【選択科目】  
環境学概論、農村計画、生産環境保全学、森林科学、環境緑地計画、水土環境技術、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、都市計画、農業農村振興論、測量、地域環境論、材料学、土壌肥料学、地理情報分析、生活環境工学、環境経済学、都市空間計画論

## 副専攻②

### コミュニティオーナーシップ プログラム

【テーマ】 学生が地域社会に入り込み、自ら課題を発見・分析し、解決策を構想・実行するプロセスを体系的に学ぶことで、「地域に根ざし、世界に開かれた知の拠点」を体現し、主体的に地域コミュニティに関わる人材の育成



- ・フィールドは宮城県全域！
- ・地域のステークホルダーと連携したフィールドスタディ



【必修科目】  
地域フィールドワーク、食文化論、保健行動科学、シビックエンゲージメント実践

【選択科目】  
関連科目の中から9単位以上を選択

## 副専攻③

### アントレプレナーシップ プログラム

【テーマ】 不確実性の高い社会において、自らの使命（ミッション）を起点に、課題を再定義し、価値を創造・実装するプロセスを実践的に学ぶことで、持続的に新しい問いと解決策を生み出せる人材の育成



- ・予測不可能なこの社会への向き合うマインドと、乗り越えるスキル



以下から6科目（12単位）以上を選択  
**【主要科目】** アントレ基礎、デザイン創学演習（課題創出）  
**【重要科目】** イノベーションデザイン、コミュニケーションデザイン  
**【関連科目】** サービスデザイン、ビジネスデザイン、スタートアップ経営論、ソーシャルデザイン、ファイナンス、社会シミュレーション、ソーシャルキャピタル、デザインマネジメント、アプリケーションデザイン

副専攻

副専攻

副専攻

副専攻

看護学群

事業構想学群

食産業学群

デザイン創学群

主専攻

【課題等】 遠隔授業(座学・グループワーク)環境の整備 (キャンパスを跨いだオンライン授業)



# ー全学副専攻プログラム①ー グリーンインフラGXプログラム

将来像の実現に向け  
た具体的内容

- ・自然災害の激甚化、頻発化や、GX等の関心の高まり等の世界的な潮流の中で、自然が持つ多様な機能を賢く利用し、持続可能な社会と経済の発展に寄与するグリーンインフラが注目。
- ・グリーンインフラの実践に必要な土木工学、農業農村工学、森林科学等を分野横断的に学ぶことにより、次代の社会デザインを構築するための素養を身につけた人材を育成するため、宮城大学の副専攻教育プログラムとして設置。
- ・グリーンインフラは農学・林学・工学等の既存の学問分野が融合した実学的な分野（学会設立準備中）であり、次代を担う人材の育成に向けて、宮城大学が取り組む意義は大きい。

## 【背景】

- ・ ネイチャーポジティブやカーボンニュートラルなど環境に関する世界的な潮流
- ・ 自然災害の激甚化、頻発化への対応
- ・ インフラの老朽化を踏まえた維持管理への対応
- ・ 魅力とゆとりある都市・農村生活空間へのニーズの高まり
- ・ 人口減少社会での土地利用の変化への対応
- ・ SDGsの実現に向けた意識の高まり
- ・ Well-being、GX、DXの実現

自然と共生する社会の実現

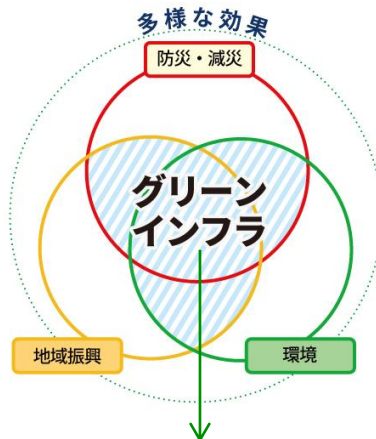
地域のグリーンインフラを支える  
人材の育成

## 【育成人材像】

都市・農村・森林の社会インフラ基盤整備及び環境・生態系に関する基礎知識を有し、GX等の潮流を踏まえ、新たな社会デザインを描く素養を持った人材

## 【想定する就職先等】

- ・ 技術系公務員（市町村・県・国等の総合土木、林業職等）
- ・ 民間企業の環境、建設系技術職
- ・ ゼネコン
- ・ シンクタンク
- ・ 大学院進学（環境、インフラ系）



グリーンインフラ  
自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画（グリーンインフラ研究会）

## 【グリーンインフラを学べる主な大学】

- ・ 東京大学工学部都市工学科
- ・ 京都大学工学部土木工学科
- ・ 千葉大学園芸学部
- ・ 名古屋大学工学部土木工学科
- ・ 東京農業大学地域環境科学部
- ・ 広島工業大学地球環境学科
- ・ 大正大学公共政策学科

## 【グリーンインフラの実践に必要な素養】

- ・ 生態系・生物多様性
- ・ 森林・農業農村の多面的機能
- ・ 水文・水資源管理
- ・ 都市計画、農村計画、森林計画
- ・ ランドスケープデザイン
- ・ 参加型デザイン
- ・ 環境、防災・減災、インフラ整備

既設科目をもとに  
不足科目を新設し  
カリキュラム構築

## 【必修科目（4単位）】

グリーンインフラGX概論、グリーンインフラ論

## 【選択科目（以下から12単位）】

環境学概論、農村計画、生産環境保全学、森林科学、環境緑地計画、水土環境技術、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、都市計画、農業農村振興論、測量、地域環境論、材料学、土壌肥料学、地理情報分析、生活環境工学、環境経済学、都市空間計画論

グリーンインフラ科目

主専攻科目等





—全学副専攻プログラム②—

コミュニティオーナーシッププログラム

将来像の実現に向け  
た具体的内容

- 宮城大学では、2012年度から兵庫県立大学と共同で、地域社会が抱える課題解決と健全な地域コミュニティの担い手となる人材育成（コミュニティ・プランナープログラム）を展開、プロジェクトマネジメントを主体とする実践講座を実施しており、その後継講座となる。
- 高等学校では探究学習が必修化されるなど、地域人材育成に関する授業が増えており、科目の高大接続が必要となっている。
- 宮城大学では、独自の地域人材育成メソッドを構築しており、また宮城県内自治体と構築してきた関係性をもとに、プログラムのアップデートを図る。
- 体系化されたプログラムでの一貫した学びを通して、地域課題に対処できるスキルの習得を図り、コミュニティ・オーナーシップを醸成しながら、地域社会に貢献できる人材の輩出を目指す。

地域とともに、未来を描く

コミュニティオーナーシップとは？

(Community Ownership)

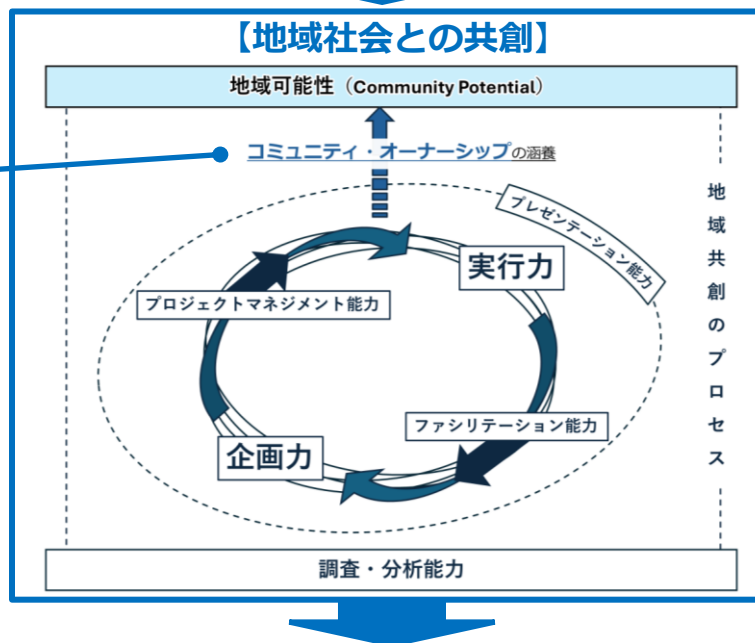
地域コミュニティへの興味・関心を土台として、地域コミュニティとの関わりによって醸成される、地域社会に対する当事者意識。

【特徴】

- 1-2年次に必修科目を配置し、入学後早期に「地域可能性」を描くための基礎的な能力や専門知識を、座学・PBL形式の講義を提供
- 宮城県内自治体、企業、団体等のステークホルダーとの連携により、実践的な学びを提供
- 兵庫県立大学等、他大学との積極的な交流・学び合いを伴うプログラム

地域課題・社会課題  
【地域社会との連携】

【地域社会との共創】



カリキュラム概要

[ 必修科目 : 7単位 ]

1年	前期	地域フィールドワーク [1単位] (看護・事業構想・食産業等)※学群ごとの科目開設	1年次履修
	後期	食文化論 [2単位] (食産業学群 専門基礎科目)	
2年	前期	保健行動科学 [2単位] (看護学群 専門科目)	2年次履修
	後期	シビックエンゲージメント実践 [2単位] (旧CP実践論/事業構想学群 専門科目)	

[ 学群指定関連科目 : 9単位以上 ]

関連科目

副専攻修了証

持続可能な地域に向けた課題解決策の提示  
【ソーシャルイノベーションの実践】



# —全学副専攻プログラム③— アントレプレナーシッププログラム

将来像の実現に向け  
た具体的内容

宮城大学では、これまでに蓄積してきたアントレプレナーシップ教育の知見を発展させ、社会や組織に潜在する課題を起点に、新たな価値を構想し、実装し、持続的な変化として社会に定着させていくための、統合的な思考力と実践力を備えた人材の育成を目的として、デザイン志向のアントレプレナーシッププログラムを新たに創設します。

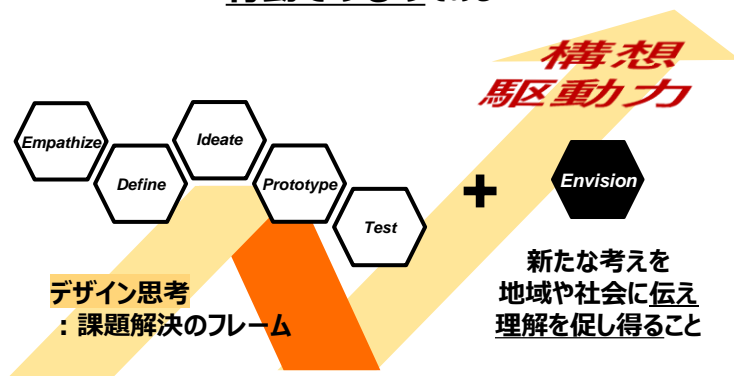
## アントレプレナーシップ（起業家精神）

不確実性の高い社会において、自らの使命（ミッション）を起点に、課題を再定義し、価値を創造・実装するプロセスを実践的に学ぶ。社会変化に柔軟に向き合いながら、他者と協働し、持続的に新しい問いと解決策を生み出せるマインドと自信

### アントレプレナーシップ

この社会における「生き残り・サバイバル」の為の

**行動そのもの**である



主要科目

重要科目

関連科目

【以下の科目群から6科目を履修】

アントレ基礎	自分のミッションの定め方、ビジョンの描き方
デザイン創学演習 (課題創出)	新たな課題を生み出し、発見するための手法(デザイン思考/バックキャスト)
イノベーションデザイン	イノベーションの正しい起こし方
コミュニケーション デザイン	物事を円滑に進めるためのコミュニケーションのあり方
サービスデザイン	受け手視点でのサービスの創り方(そもそもサービスって?)
ビジネスデザイン	各種活動に継続性を持たせるための視点/ビジネスモデルの創り方
スタートアップ経営論	新たにコトを起こす際に必要な経営の基礎スキル
ソーシャルデザイン	社会課題から価値を創出するためのあり方
ファイナンス	変革を実現可能にするための経済的リソース確保のあり方
社会シミュレーション	社会や市場の変化を読み解くためのシミュレーション手法
ソーシャルキャピタル	イノベーションに必要なとされるネットワークのあり方
デザインマネジメント	デザインを実装するためのマネジメントのあり方
アプリケーションデザイン	ユーザーと価値をつなぐためのアプリケーションの創り方

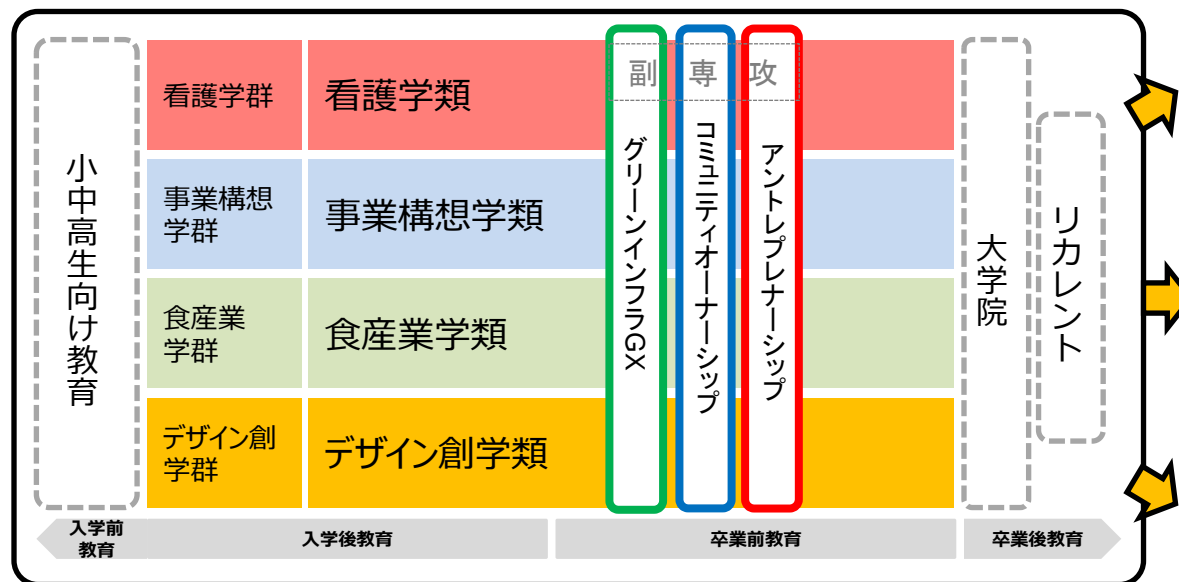


将来像の実現に向けた  
具体的内容

## 新たな体制により強化される人材輩出

### 宮城大学における人材育成戦略

- ✓ 入学前教育～学群・大学院教育～リカレント教育と一貫して展開する統合的人材育成
- ✓ 小中高から宮城大学と関わることで地域社会へのより深い理解と愛着を促進
- ✓ リカレント教育を通して卒後も宮城大学と係わりを維持し、I・Uターンの契機に
- ✓ 新たな体制により「新・宮城の将来ビジョン」に即した具体的な人材輩出をより一層強化



安心安全な地域の基盤としての保健  
医療機関・行政における看護人材

[3]誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり

地域社会を理解し  
地域交流を促進する支援人材

[3]誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり

地域産業の基盤強化を担うDX人材

[1]富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進

農業土木分野で活躍するGX人材

[4]強靱で自然と調和した県土づくり

食産業分野の発展と持続性を担う  
専門人材

[1]富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進

未来社会へ向けての先進的取組や  
異なる領域連携を担う価値創造人材

[1]富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進

### 新・宮城の将来ビジョン：政策推進の基本方向「宮城の未来をつくる4本の柱」と8つの「つくる」より

#### [1] 富県宮城を支える 県内産業の持続的な成長促進

- (1) 全産業で、先進的取組と連携によって新しい価値をつくる
- (2) 産業人材の育成と産業基盤の活用によって持続的な成長の基礎をつくる

#### [2] 社会全体で支える 宮城の子ども・子育て

- (3) 子ども・子育てを社会全体で切れ目なく応援する環境をつくる
- (4) 社会を生き、未来を切りひらく力をはぐくむ教育環境をつくる

#### [3] 誰もが安心していきいきと 暮らせる地域社会づくり

- (5) 一人ひとりがいきいきと豊かに生活できる環境をつくる
- (6) 健康で、安全安心に暮らせる地域をつくる

#### [4] 強靱で自然と調和した県土づくり

- (7) 自然と人間が共存共栄する社会をつくる
- (8) 世代を超えて安全で信頼のある強くなやかな県土をつくる



# 大学改革におけるDPの実質化と 教育システム整備の戦略とアクションプラン

## 改革の3つのポイント：明確な地域人材ニーズへ迅速かつ柔軟に対応

- ✓ 学群学類の改編；デザイン創学群の設置・「3学群6学類」から「4学群」へ
- ✓ 副専攻プログラム「グリーンインフラGX」「コミュニティオーナーシップ」「アントレプレナーシップ」の設立
- ✓ 全学教育連携センター（仮称）の設置

【DP】	【戦略】	【アクションプラン】
<b>1. 関係性形成力</b> “ホスピタリティ”と“豊かな人間性”は、多様性を尊重し、他者と共に生きる力として表現される。	リベラルアーツ・ 基礎教養科目の充実  汎用性能力の体系的な涵養	フレキシブルな履修（高年次でも） 単位互換制度の整備 最低履修単位の確保
<b>2. 探究・創造力</b> “実学に基づく高度な専門性”は、幅広い教養知に立って専門知を主体的に学修し、知性と感性を統合して多角的な視野から課題を発見・探究し、その解を創造する力として獲得される。	文理融合・学際的修学環境 多様性の担保	学群・学類改組—1学類制 モジュール型カリキュラム編成 副専攻
<b>3. 共創・実践力</b> “アメニティ”と“確かな実践力”は、新たな未来社会を構想し、使命感をもって、地域と世界をつなぎ、共創し得る実践的協働力として獲得される。	地域・社会課題ベースの学習環境 課題探究力・解決力から実践力涵養 地域課題・社会課題の理解  国際性の醸成	副専攻 CO/アントレプレナーシップ/グリーンインフラ 地域フィールドワーク等入門科目を全学必修 他の科目群（目的を明示）  基本的英語力教育の充実 領域で必要な専門英語 留学機会の幅広い提供：多様なプログラム 協定校からの留学生受入の拡大（派遣のために必須）

### 【教育システム・環境の整備】

持続可能なシステム・環境	学修者本位の教育	多様な学びを保障
	学修成果の可視化	学生マネジメント参加（学生評議員等）
	教育IR/エンrollmentマネジメント	学生満足度評価 重要科目での埋込型パフォーマンス評価（PEPA） 評価の観点（汎用性能力+専門知）/評価軸/評価スケール